

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成29年11月10日

【四半期会計期間】 第28期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）

【会社名】 株式会社メガチップス

【英訳名】 MegaChips Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 高田 明

【本店の所在の場所】 大阪市淀川区宮原一丁目1番1号

【電話番号】 06（6399）2884（代表）

【事務連絡者氏名】 財務本部渉外部長 三宅 正久

【最寄りの連絡場所】 大阪市淀川区宮原一丁目1番1号

【電話番号】 06（6399）2884（代表）

【事務連絡者氏名】 財務本部渉外部長 三宅 正久

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第2四半期 連結累計期間	第28期 第2四半期 連結累計期間	第27期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高(千円)	29,481,947	44,715,200	67,438,389
経常利益又は経常損失( )(千円)	146,709	1,444,032	994,998
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( )(千円)	1,611,894	1,382,575	947,554
四半期包括利益又は包括利益(千円)	4,807,715	2,547,155	658,834
純資産額(千円)	23,367,856	29,559,157	27,631,297
総資産額(千円)	67,541,822	91,781,867	80,465,595
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失( )(円)	75.21	64.03	44.14
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益(円)	-	63.66	-
自己資本比率(%)	34.5	32.2	34.3
営業活動によるキャッシュ・フロー(千円)	1,513,187	3,678,917	340,313
投資活動によるキャッシュ・フロー(千円)	2,818,052	1,891,996	6,540,439
財務活動によるキャッシュ・フロー(千円)	1,013,186	1,880,930	7,439,494
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高(千円)	8,075,761	8,164,582	11,954,167

回次	第27期 第2四半期 連結会計期間	第28期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日	自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )(円)	42.24	62.28

(注)1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第27期第2四半期連結累計期間及び第27期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社における異動は次のとおりです。

特定子会社に該当しておりました京宏科技股份有限公司（Modiotek Co., Ltd.）並びにその子会社3社は、清算手続きを開始したことに伴い重要性が乏しくなったため、当第2四半期連結会計期間末において連結の範囲から除外いたしました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における電子機器業界においては、民生用電子機器の需要が減少したものの、産業用電子機器並びに電子部品・デバイスの需要が増加した結果、電子機器業界全体の市場は前年同期比増という状況で推移いたしました。

ASICにおいては、これまでの主力分野であるゲーム機器、デジタルカメラ、事務機器分野に加え、FA、ロボティクスなどの産業機器分野における国内外の有力顧客に向け、顧客の機器・サービスのアプリケーションに最適なソリューションを提供しております。その競争力は、顧客のアプリケーションに関する深い理解と独自のコア技術を基に、アルゴリズム・アーキテクチャの開発から性能・コスト競争力に優れたシステムLSIの開発・供給を、上流の論理設計から下流の物理設計、製造オペレーション、品質保証に至るまで一貫したサポート体制で提供できることにあります。

ASSPにおいては、国内外の競合企業や市場環境の変化に適応しつつ、IoT時代の到来により更なる成長を図るため、成長機器市場の有力グローバル企業に向けたビジネスを立ち上げ、事業ポートフォリオのバランスの改善に取り組んでおります。そのための施策として、IoT分野の製品を中心にプラットフォームを構成する製品の拡充を図るとともに、成長機器市場における有力グローバル企業とのビジネス関係を更に緊密にし、重点的にグローバルに通用する人材の育成を図りつつ、収益構造の転換を積極的に進めております。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、主にゲームソフトウェア格納用LSI（カスタムメモリ）、Smart Connectivity LSI及びMEMSタイミングデバイスの需要がそれぞれ増加したことにより、売上高は447億1千5百万円（前年同四半期比51.7%増）となりました。また、海外企業の買収に伴うのれん及び無形固定資産の償却費が13億9千6百万円発生し、償却前の営業利益は29億5千2百万円、償却後の営業利益は15億5千6百万円（前年同四半期は3千万円の営業損失）、経常利益は14億4千4百万円（前年同四半期は1億4千6百万円の経常損失）となり、特別利益として投資有価証券売却益が9億2千5百万円発生し、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億8千2百万円（前年同四半期は16億1千1百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当社グループは単一の事業セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

#### (2) 財政状態の変動状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は917億8千1百万円（前連結会計年度比113億1千6百万円の増加）となりました。主要な項目を前連結会計年度と比較すると、受取手形及び売掛金が159億8千8百万円、投資有価証券が16億5千9百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が37億8千9百万円、商品及び製品が15億1千万円、のれんが14億2千3百万円それぞれ減少しております。

負債合計は622億2千2百万円（同93億8千8百万円の増加）となりました。主要な項目を前連結会計年度と比較すると、支払手形及び買掛金が62億9千7百万円、短期借入金が35億9千4百万円、長期借入金が20億円それぞれ増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が30億円減少しております。

純資産は295億5千9百万円（同19億2千7百万円の増加）となりました。この結果、自己資本比率は32.2%（同2.1ポイントの下降）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、81億6千4百万円となり、前連結会計年度に比べ37億8千9百万円の減少（前年同四半期は26億5千6百万円の減少）となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、36億7千8百万円の資金の使用（前年同四半期は15億1千3百万円の資金の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が21億9千3百万円（前年同四半期は11億4千7百万円の税金等調整前四半期純損失）となり、減価償却費が13億3千1百万円発生し、たな卸資産が13億6千7百万円の減少、仕入債務が63億2千4百万円の増加となった一方で、売上債権が160億5千4百万円の増加となったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、18億9千1百万円の資金の使用（前年同四半期は28億1千8百万円の資金の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が10億5千6百万円、無形固定資産の取得による支出が13億1千8百万円あった一方で、投資有価証券の売却による収入が11億4千4百万円あったことによるものであります。この結果、営業活動によるキャッシュ・フローと投資活動によるキャッシュ・フローを合算したフリー・キャッシュ・フローは、55億7千万円の資金の使用（前年同四半期は13億4百万円の資金の使用）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、18億8千万円の資金の獲得（前年同四半期は10億1千3百万円の資金の使用）となりました。これは短期借入金の純増減額が36億1千3百万円の増加となった一方で、長期借入金の返済による支出が10億円、配当金の支払額が7億3千2百万円あったことによるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

株式会社の支配に関する基本方針は定めておりませんが、買収防衛策や濫用的買収者から株主の皆様の利益を守ることは会社の経営上重要な事項として認識しており、最近の企業買収動向について常時情報を収集しております。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、29億4千1百万円（前年同四半期比34.5%増）となっております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,038,400	23,038,400	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	23,038,400	23,038,400	-	-

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	23,038,400	-	4,840,313	-	6,181,300

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社メガチップス	大阪市淀川区宮原1-1-1	1,390	6.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,348	5.85
有限会社シンドウ	大阪府豊中市待兼山町15-16	1,239	5.38
株式会社シンドウ・アンド・アソシエイツ	大阪府豊中市待兼山町15-16	1,239	5.38
松岡茂樹	大阪府吹田市	810	3.51
進藤晶弘	大阪府豊中市	670	2.91
進藤律子	大阪府豊中市	670	2.91
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決 済営業部部長 佐古智明)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A (常任代理人 東京都港区港南2-15- 1 品川インターシティA棟)	585	2.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会 社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	541	2.34
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	487	2.11
計	-	8,984	39.00

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)1,348千株及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)541千株であります。
2. 平成23年2月4日に提出されました大量保有の変更報告書によりますと、松岡茂樹氏が共同保有者として保有する株式数は松岡明子氏名義となっている42千株であります。
3. 平成28年11月21日付で公衆の縦覧に供されている大量保有の変更報告書において、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ及びその共同保有者が、平成28年11月14日現在でそれぞれ以下のとおり株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には反映しておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等 の数(千株)	株券等保有 割合(%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	487	2.12
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	338	1.47
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	172	0.75
カブドットコム証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目3番2号	28	0.12
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	128	0.56

4. 平成29年4月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有の変更報告書において、三井住友信託銀行株式会社及びその共同保有者が、平成29年4月14日現在でそれぞれ以下のとおり株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には反映しておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等 の数(千株)	株券等保有 割合(%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	878	3.81
三井住友トラスト・アセットマネジ メント株式会社	東京都港区芝三丁目33番1号	161	0.70
日興アセットマネジメント株式 会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	96	0.42



5. 平成29年9月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有の変更報告書において、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社が平成29年9月15日現在で以下のとおり株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には反映しておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	1,030	4.47
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目7番3号	41	0.18
ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・ピーエルシー	英国、ロンドン E14 5JP カナリー・ウォーフ、バンク・ストリート25	59	0.26
ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・エルエルシー	アメリカ合衆国 ニューヨーク州 10179 ニューヨーク市 マディソン・アベニュー383番地	54	0.23

6. 平成29年9月25日付で公衆の縦覧に供されている大量保有の変更報告書において、レオス・キャピタルワークス株式会社が平成29年9月15日現在で以下のとおり株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には反映しておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
レオス・キャピタルワークス株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目11番1号	988	4.29

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,390,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,635,900	216,359	-
単元未満株式	普通株式 12,100	-	-
発行済株式総数	23,038,400	-	-
総株主の議決権	-	216,359	-

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社メガチップス	大阪市淀川区宮原一丁目1番1号	1,390,400	-	1,390,400	6.03
計	-	1,390,400	-	1,390,400	6.03

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### 役職の異動

新職名	旧職名	氏名	異動年月日
執行役員 知財法務本部長	執行役員 L S I 事業本部長	松岡 茂樹	平成29年 7 月 1 日
執行役員 財務本部長	執行役員 財務・法務本部長	藤井 理之	平成29年 7 月 1 日
執行役員 営業本部長 (兼)Display周辺LSI事業 本部長	執行役員 営業本部長 (兼)経営企画室担当 (兼)新規事業本部長	吉清 恭一	平成29年 7 月 1 日
執行役員 経営企画室長(兼) (兼)経営企画室経営企画 部長 (兼)調達・生産統括部長	執行役員 調達・生産統括部長 (兼)調達・生産統括部購 買・企画部長 (兼)情報システム担当	肥川 哲士	平成29年 7 月 1 日
執行役員 ASSP事業本部長	執行役員 財務・法務本部知財法務 部長	下前 泰人	平成29年 7 月 1 日
執行役員 SC事業部長	執行役員	明山 浩一	平成29年 7 月 1 日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,103,207	8,313,971
受取手形及び売掛金	21,763,961	37,752,795
商品及び製品	3,704,345	2,193,586
仕掛品	1,972,771	2,172,995
原材料及び貯蔵品	1,037,447	919,592
繰延税金資産	884,818	884,563
その他	1,866,501	2,208,871
貸倒引当金	15,502	20,489
流動資産合計	43,317,549	54,425,887
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,379,050	4,365,161
減価償却累計額	3,084,331	3,137,423
建物(純額)	1,294,719	1,227,738
その他	10,426,914	10,923,827
減価償却累計額	7,106,622	7,278,804
その他(純額)	3,320,291	3,645,022
有形固定資産合計	4,615,010	4,872,760
無形固定資産		
のれん	14,910,416	13,487,054
技術資産	5,089,205	4,516,437
その他	4,994,231	5,753,218
無形固定資産合計	24,993,852	23,756,710
投資その他の資産		
投資有価証券	1,140,253	2,799,835
長期前払費用	2,903,799	2,671,342
繰延税金資産	1,205,034	1,214,736
その他	2,301,604	2,040,594
貸倒引当金	11,508	-
投資その他の資産合計	7,539,183	8,726,509
固定資産合計	37,148,046	37,355,980
資産合計	80,465,595	91,781,867

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,871,279	15,168,895
短期借入金	23,471,120	27,065,535
1年内返済予定の長期借入金	5,000,000	2,000,000
未払法人税等	409,665	984,455
賞与引当金	640,856	622,774
工事損失引当金	14,533	401
その他の引当金	-	5,000
その他	2,939,579	3,214,101
流動負債合計	41,347,033	49,061,164
固定負債		
長期借入金	8,000,000	10,000,000
繰延税金負債	2,078,745	1,875,641
その他	1,408,518	1,285,904
固定負債合計	11,487,264	13,161,545
負債合計	52,834,298	62,222,710
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,840,313	4,840,313
資本剰余金	6,182,338	6,182,976
利益剰余金	17,274,367	17,958,665
自己株式	1,859,404	1,754,112
株主資本合計	26,437,615	27,227,843
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	434,952	2,303,604
為替換算調整勘定	745,021	27,709
その他の包括利益累計額合計	1,179,974	2,331,314
非支配株主持分	13,707	-
純資産合計	27,631,297	29,559,157
負債純資産合計	80,465,595	91,781,867

## (2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	29,481,947	44,715,200
売上原価	22,002,731	34,059,772
売上総利益	7,479,216	10,655,427
販売費及び一般管理費	1 7,509,311	1 9,099,399
営業利益又は営業損失( )	30,094	1,556,028
営業外収益		
受取利息	2,472	2,950
投資事業組合運用益	-	9,372
未払配当金除斥益	3,296	3,016
為替差益	-	4,609
雑収入	4,430	5,126
営業外収益合計	10,198	25,075
営業外費用		
支払利息	73,348	109,536
借入手数料	-	13,230
投資事業組合運用損	988	-
為替差損	44,886	-
雑損失	7,591	14,304
営業外費用合計	126,814	137,070
経常利益又は経常損失( )	146,709	1,444,032
特別利益		
投資有価証券売却益	-	925,154
特別利益合計	-	925,154
特別損失		
固定資産除却損	-	175,471
投資有価証券評価損	1,001,076	-
特別損失合計	1,001,076	175,471
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	1,147,786	2,193,716
法人税等	503,520	790,528
四半期純利益又は四半期純損失( )	1,651,306	1,403,188
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	1,611,894	1,382,575
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失( )	39,411	20,612
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	642,308	1,868,651
為替換算調整勘定	3,798,717	724,684
その他の包括利益合計	3,156,408	1,143,967
四半期包括利益	4,807,715	2,547,155
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,759,984	2,526,957
非支配株主に係る四半期包括利益	47,731	20,197

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	1,147,786	2,193,716
減価償却費	955,358	1,331,991
のれん償却額	848,111	906,120
長期前払費用償却額	354,187	378,873
賞与引当金の増減額( は減少)	108,555	18,151
工事損失引当金の増減額( は減少)	44,787	14,132
受取利息及び受取配当金	2,472	2,950
支払利息	73,348	109,536
投資有価証券売却損益( は益)	-	925,154
投資有価証券評価損益( は益)	1,001,076	-
売上債権の増減額( は増加)	5,452,238	16,054,249
たな卸資産の増減額( は増加)	92,098	1,367,843
仕入債務の増減額( は減少)	5,319,602	6,324,178
その他の資産の増減額( は増加)	444,940	30,848
その他の負債の増減額( は減少)	368,247	815,851
その他	12,800	351,924
小計	1,882,815	3,203,752
利息及び配当金の受取額	2,633	3,237
利息の支払額	78,387	132,302
法人税等の還付額	354	12,192
法人税等の支払額	294,228	358,292
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,513,187</b>	<b>3,678,917</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	202,792	262,153
定期預金の預入による支出	201,017	262,153
有形固定資産の取得による支出	679,009	1,056,090
無形固定資産の取得による支出	1,386,674	1,318,083
投資有価証券の売却による収入	-	1,144,130
投資有価証券の取得による支出	221,381	-
長期前払費用の取得による支出	257,561	282,404
その他	275,200	379,549
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,818,052</b>	<b>1,891,996</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	711,640	3,613,285
長期借入金の返済による支出	1,000,000	1,000,000
配当金の支払額	724,872	732,192
その他	46	161
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,013,186</b>	<b>1,880,930</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	338,548	28,865
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	2,656,599	3,718,849
現金及び現金同等物の期首残高	10,732,361	11,954,167
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額( は減少)	-	70,734
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 8,075,761	1 8,164,582

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の変更)

京宏科技股份有限公司及びその子会社3社は、清算手続きを開始したことに伴い重要性が乏しくなったため、当第2四半期連結会計期間末において連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給料	1,336,314	1,638,656
賞与引当金繰入額	215,650	350,312
退職給付費用	68,134	71,201
研究開発費	2,186,554	2,941,794
貸倒引当金繰入額	1,071	5,354
のれん償却額	848,111	906,120

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金	8,273,825	8,313,971
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	198,063	149,388
現金及び現金同等物	8,075,761	8,164,582



(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	728,584	34	平成28年3月31日	平成28年6月2日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月10日 取締役会	普通株式	733,187	34	平成29年3月31日	平成29年6月2日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、単一の事業セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度末(平成29年3月31日)

その他有価証券

区分	取得原価(千円)	連結貸借対照表計上額(千円)	差額(千円)
株式	677,467	1,106,994	429,526
合計	677,467	1,106,994	429,526

(注)1. 上記には、投資事業組合の構成資産に係るその他有価証券で時価のあるものが含まれております。

2. 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当第2四半期連結会計期間末(平成29年9月30日)

その他有価証券で時価のあるものが、企業集団の事業の運営において重要なものとなっております。

区分	取得原価(千円)	四半期連結貸借対照表計上額(千円)	差額(千円)
株式	469,686	2,770,238	2,300,552
合計	469,686	2,770,238	2,300,552

(注)1. 上記には、投資事業組合の構成資産に係るその他有価証券で時価のあるものが含まれております。

2. 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引は、企業集団の事業の運営において重要なものではないため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )(円)	75.21	64.03
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	1,611,894	1,382,575
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	1,611,894	1,382,575
普通株式の期中平均株式数(株)	21,432,896	21,594,189
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益(円)	-	63.66
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	122,770

(注) 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月10日

株式会社メガチップス  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 和田 安弘 印  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 安田 智則 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社メガチップスの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社メガチップス及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。